

見どころ案内

シュウメイギク (キンポウゲ科)

名前に菊とつきますが、菊の仲間ではなくアネモネの仲間、中国から古い時代に入って来た帰化植物です。花色は赤紫色ですが、近年多種との交配品種が市販されるようになり、花卉の少ない品種や白色の品種が多く栽培されています。

オジギソウ (マメ科)

南アメリカ原産で、日本へは江戸時代後期にオランダ船によって持ち込まれたと言われている帰化植物です。刺激を与えると葉を閉じて、葉柄を垂れさせる独特の運動を行います。夜にも同じように葉を閉じます。

タラノキ

(ウコギ科)

高さは2~4m程度で、あまり枝分かれせず、まっすぐに立ち、葉は先端に集中します。新芽を天麩羅などにして食されます。レストラン側のゴンズイと紅白になっています。

大温室改修のため休館

リニューアルオープンは平成29年秋ごろ(予定)です。

アセロラ (キントラノオ科)

ビタミンCを豊富に含む果実として、ドリンクや飴など、すっかり馴染みの熱帯果樹のひとつではないでしょうか。果実に見合わない小さな花と大きな果実を併せてご覧いただけます。

リンボク

(バラ科)

若枝の葉の鋸歯が鋭く尖って針状になるのでヒラギとか間違われることもあります。花は秋に咲き、雌しべが長く、白い小さな花を、穂状につけます。用途は薪炭、器具材などで、樹皮から染料をとることもあります。

ウメドキ(実)

(モチノキ科)

吉備高原から中国山地の湿原や湿った林下に分布し、果実は9月頃から赤く熟し、12月頃に落葉しても枝に残っています。

ハギ園 (マメ科)

只今ハギ園全体が花盛り! 今秋は植栽変更して、ハギのみではなくキキョウ、フジバカマ、オミナエシなど秋の七草を一同にご覧いただけます。

オオモクゲンジ

(ムクロジ科)

中国雲南省原産の落葉高木。枝先の円錐花序に無数の小花を咲かせています。下からでは気付きにくい位置に植栽していますが、展望塔の2~3階から間近にご覧いただけます。

十月桜と三波川冬桜

(バラ科)

十月桜は、4月上旬と10月頃の年二回開花し、紅葉する樹木と一緒に鑑賞出来ます。

三波川冬桜は、群馬県鬼石町三波川の桜山公園に植栽されたので名前がつけました。

